

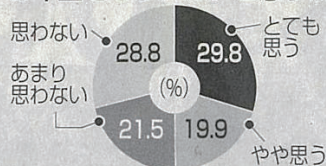
お年玉調査

紙製品・化成品メーカーのマルアイ（市川三郷町市川大門、村松道哉社長）が20代以上を対象に行ったお年玉に関する調査によると、約5割が「お年玉がほしい」と回答した。使い道は貯金と買い物に集中。同社は「物価高を背景にした堅実さの一方で、購買意欲の高さも確認できた」としている。

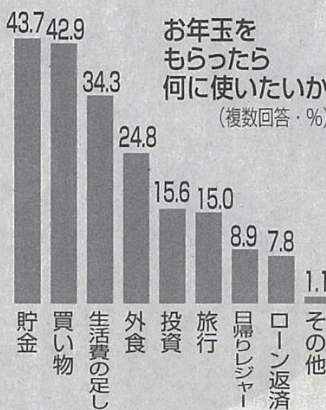
調査は11月25～27日、全国の20代以上の男女を対象にインターネットで行い、722人から回答を得た。「お年玉をもらいたいと思うか」という設問には「とても思う」と「やや思う」が計49・7%で「思わない」と

「お年玉ほしい」 20代以上も 5 割

お年玉をもらいたいと思うか



お年玉を
もらったら
何に使いたい
(複数回答・%)



マルアイ調査 貯金、買い物二極化

「あまり思わない」が計50・3%と拮抗した。担当者は調査対象者の年代から、「想像よりほしいと回答する人が多かった。お年玉の使い道(複数回答可)については「貯金」が43・7%

で最多。「買い物」が42・9%、「生活費の足し」が34・3%で続いた。担当者は「物価高で貯金や生活費に回したい堅実思考の一方、付加価値のある商品を求める傾向もみられ、「二極化している」とみている。

このほか、24年の正月にお年玉をあげるかどうかには、45・4%が「あげる」と回答した。お年玉はいつまであげるものと思うかという設問には「高校卒業まで」が36・4%でトップ。「短大・大学・専門学校生まで」が16・9%、「成人になるまで」が12・6%など続いた。

〈山本就己〉